資料3

令和2年度 吹田市第3次環境基本計画に係る
環境施策の実績集約・自己評価

【内部評価】

【この冊子の位置づけ】

令和2年度の吹田市第3次環境基本計画に係る環境施策の実績及び進捗状況と市による自己評価をまとめました。

目次

近年の環境情勢について 1

吹田市第3次環境基本計画 施策体系 2

評価方法について 3

目標ごとの進捗状況と評価 5

1 重点戦略 5

（1） はぐくむ 5

（2） まもる 6

（3） そなえる 7

2 分野別目標 8

（1） エネルギー 8

（2） 資源循環 9

（3） 生活環境 10

（4） みどり・自然共生 12

（5） 都市環境 14

近年の環境情勢について

昨年、地球温暖化対策に係る国際的枠組みである「パリ協定」が実行段階に入り、新たな段階を迎えています。また、多量排出国であるアメリカが本年2月にパリ協定に復帰するなど、気候変動対策に向けて世界全体で一丸となって取り組んでいます。

また昨年10月に、世界全体のカーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）の実現に向けて、技術革新の確立と社会実装の実現をテーマとした、関連する6つの国際会議が「東京ビヨンド・ゼロ・ウイーク」として一体的に開催されました。

我が国においては、昨年10月に「2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることを目指す」ことを宣言しました。本年5月には「地球温暖化対策の推進に関する法律」が改正され、「2050年までの脱炭素社会の実現」等が基本理念に盛り込まれています。

またレジ袋有料化義務化（無料配布禁止等）を趣旨とした容器包装リサイクル法の関係省令の改正が昨年7月に施行され、使い捨てプラスチック削減に向けた取組も進んでいます。

持続可能な社会を実現するためには、地球温暖化対策を推進することで実現する低炭素社会のほか、循環型社会及び自然共生社会を目指す必要があり、私たちのライフスタイルや事業活動の転換が強く求められています。

本市においては、エネルギー消費量及びごみ排出量の削減が一定進んでいるものの、目標達成に向けて、継続的な削減が必要です。今後、より一層のエネルギー消費量やごみ排出量の削減のため、市民・事業者によるライフスタイルや事業活動の転換に向けた、さらなる取組が必要です。

これらの状況を踏まえ、地球温暖化対策の取組を強化するため、本年2月に「吹田市第2次地球温暖化対策新実行計画」を策定し、先進的な環境まちづくりを進めていくための取組として3つの「重点施策」を掲げ、各分野（緩和策等）の具体的取組を「分野別施策」として設定するなど、取り組むべき内容を整理しました。

さらに、気候変動がもたらす危機的状況を踏まえ、本年2月に豊中市と共同で「気候非常事態宣言」を共同で行いました。

本計画・本宣言に基づいた取組を進めるとともに、引き続き「吹田市第3次環境基本計画」及び「吹田市一般廃棄物処理基本計画　後期改訂版」を着実に推進する必要があります。

吹田市第3次環境基本計画 施策体系

目標			達成指標 （◎は代表指標）	活動指標	施策の柱	施策数
重点戦略	はぐくむ	環境保全・創造の基盤となる人・組織・仕組みをはぐくむ	○ 地域の美化や緑化、環境イベントなどのボランティア活動に参加する市民の割合 ○ 行政、団体、その他企業などと連携した環境活動を実施している事業者の割合	・エコスクール活動簿の評価（教室での取組）が21点以上 の学校数 ・環境啓発イベント参加者数 ・すいた環境サポーター養成 講座修了者数（累計） ・アジェンダ21すいたの 事業者会員数 ・地域材使用量（累計）	持続可能なライフスタイルを実践する人材を“はぐくむ”	5
					環境に配慮したビジネススタイルに取り組む事業者を“はぐくむ”	4
					環境を中心とした多様な主体とのつながりを“はぐくむ”	3
	まもる	良好な環境をまもる	○市域の年間エネルギー消費量 ○市民1人当たりのごみ排出量（1日） ○生物多様性の保全を重要だと思う市民の割合	・市域の太陽光発電システム 設備容量（累計） ・食品ロス削減などのごみ削減 啓発活動数（累計） ・生物多様性保全イベント 参加者数	未来につながる環境を“まもる”	4
					市民にとっての憩いの空間を“まもる”	4
	そなえる	気候変動による影響にそなえる	○災害に備えている市民の割合 ○居住地周辺の夏場の暑さ（涼しさ）に満足している市民の割合	・連合自治会単位での自主防災 組織の結成率 ・雨水排水施設の整備率 ・透水性舗装面積累計	気候変動による大規模災害に“そなえる”	4
					ヒートアイランド現象に“そなえる”	3
分野別目標	エネルギー	再生可能エネルギーの活用を中心とした低炭素社会への転換	◎ 年間エネルギー消費量（市域・家庭部門・ 業務部門） ○ 市域の年間温室効果ガス排出量 ○ 市民1人当たりの年間温室効果ガス排出量 ○ 吹田市役所の事務事業に伴う年間温室効果ガス排出量	・公共施設における再生可能 エネルギー導入件数 ・市域の太陽光発電システム 導入件数及び設備容量(累計)	ライフスタイルや事業活動の転換促進	7
					省エネルギー機器などの導入促進	4
					再生可能エネルギーの導入拡大	6
	資源循環	資源を大切にする社会システムの形成	◎ 市民1人当たりのごみ排出量（1日） ◎ リサイクル率 ○ごみの発生抑制・排出抑制やリサイクルなどごみ減量の取組に満足している市民の割合 ○燃焼ごみの年間搬入量 ○ごみの年間排出量(家庭系ごみ・事業系ごみ) ○マイバッグ持参率	・食品ロス削減などのごみ削減 啓発活動数（累計）	ごみの発生抑制を優先する社会への転換促進	4
					多くの市民が参加しやすいリサイクルシステムの構築	5
					排出者責任の確立と事業系ごみの減量促進	4
					持続可能な低炭素社会実現に寄与する収集体制や処理システムの構築	4
					水資源の有効利用と健全な水環境の推進	3
					産業廃棄物の適正処理	2
	生活環境	健康で快適なくらしを支える環境の保全	◎ 公害に関する苦情を解決した割合 ◎「環境美化推進団体」の団体数 ○環境目標値達成率（二酸化窒素、一般環境騒音、河川BOD） ○快適な生活環境の確保に満足している市民の割合 ○熱帯夜日数（5年移動平均値） ○居住地周辺の夏場の暑さ（涼しさ）に満足している 市民の割合	・下水処理水の高度処理普及率 ・環境美化推進重点地区数 ・雨水浸透箇所数累計 ・透水性舗装面積累計	環境汚染防止対策の推進	5
					環境美化の推進	4
					ヒートアイランド対策の推進	4
					日照障害・電波障害対策	1
	みどり・自然共生	自然の恵みが実感できるみどり豊かな社会の形成	◎ 吹田市域の緑被率 ◎「みどりの協定」に基づく取組などを行う団体数 ◎ みどりが豊かでまちに愛着や誇りを感じる市民の割合 ○生物多様性の保全を重要だと思う市民の割合 ○緑あふれる未来サポーター制度(公園)の登録団体数	・生物多様性保全イベント参加者数 ・市域面積に対する緑地面積の 割合 ・市民1人当たりに対する都市 公園面積 ・公園などの面積 ・希少種の保全数（ヒメボタル、 コバノミツバツツジ、ヤマサギ ソウ、イヌセンブリ）	生物多様性の保全	4
					自然資源の持続的な利用	3
					みどりを継承する	7
					みどりを生み出す	6
					みどりを活かす	7
					市民参加・協働により、みどりのまちづくりを進める	7
	都市環境	快適な都市環境の創造	◎ 今住んでいるところが気に入っているので、住み続けようと思っている市民の割合 ◎ まちなみが美しいと感じる市民の割合 ○鉄道・バスなど公共交通網の便利さに満足している 市民の割合 ○コミュニティバス1便当たりの乗車人数	・バリアフリー重点整備地区内 の主要な生活関連経路など 整備延長 ・自転車通行空間の整備延長 ・まちづくりのルール（地区整 備計画）の策定地区数[面積] ・景観に関するルール（景観重点 地区）の指定地区数[面積]	景観まちづくりの推進	3
					自動車に過度に依存しない交通環境整備	4
					環境に配慮した開発事業の誘導	1

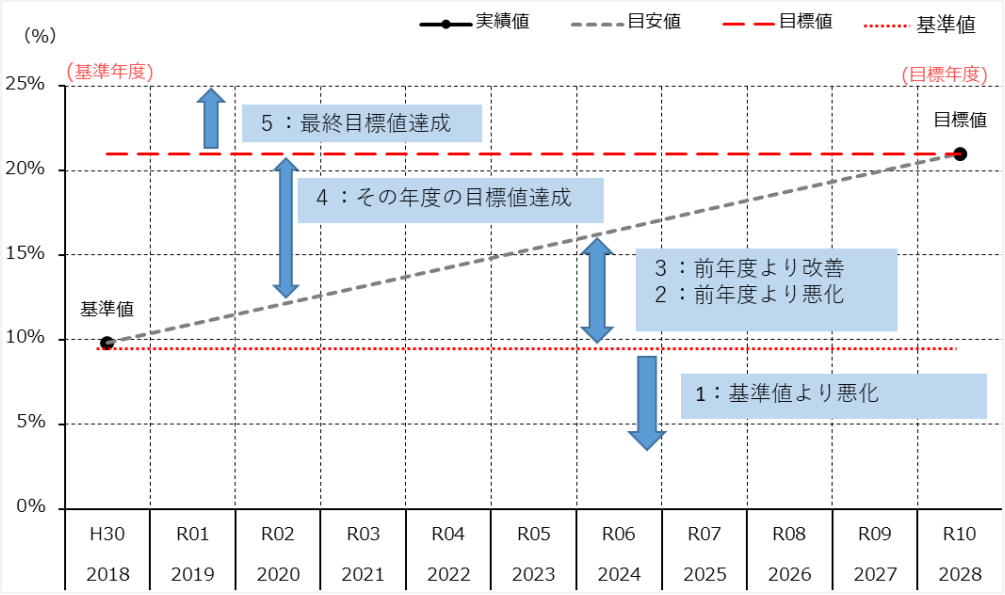
吹田市環境審議会での評価 ←→ 市役所内部での評価

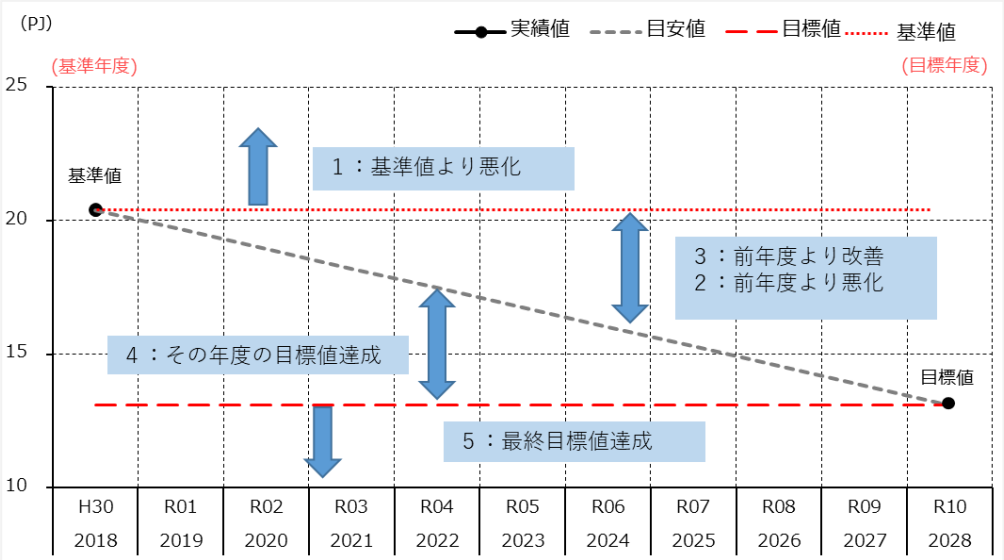
評価方法について

1 指標の評価

（1）目標値が実数の場合

評価	意味
5	最終年度の目標値を達成している
4	その年度の目標値は達成している
3	その年度の目標値は達していないが、前年度より値が改善
2	その年度の目標値は達していない、また、前年度より値が悪化
1	基準年度より値が悪化
－	評価が困難（統計資料がない、アンケート実施時期ではない等）





（2）重点戦略はぐくむ：地域材使用量（累計）【目標値↗】

評価	意味
5	前年度より 10%以上増加
4	前年度より 5%以上増加
3	前年度より増加
2	前年度と変化なし

（3）生活環境分野：環境目標値達成率

評価	意味
5	100%
4	90%以上 100%未満
3	80%以上 90%未満
2	70%以上 80%未満
1	70%未満

（4）都市環境分野：コミュニティバス 1 便当たりの乗車人数【目標値↗】

評価	意味
5	基準年度より 10%以上増加
4	基準年度より 5%以上増加
3	基準年度より増加
2	基準年度と変化なし
1	基準年度より減少

目標ごとの進捗状況と評価

Ⅰ 重点戦略

（Ⅰ） はぐくむ

ア 評価

はぐくむ 重点戦略の達成指標及び活動指標		前回 令和1年度 2019年度	今回 令和2年度 2020年度	目標値 令和10年度 2028年度	評価点
達成指標	地域の美化や緑化、環境イベントなどのボランティア活動に参加する市民の割合（%）※1	9.8% （H30年度）		21%	-
	行政、団体、その他企業などと連携した環境活動を実施している事業者の割合（%）※1	25.5% （H30年度）		40%	-
活動指標	エコスクール活動簿の評価（教室での取組）が21点以上の学校数（校）	22	14	43 校	1
	環境啓発イベント参加者数（人）	36,394	2,621	14,200 人	1
	すいた環境サポーター養成講座修了者数（累計）（人）	69	69	255 人	2
	アジェンダ２１すいたの事業者会員数（者）	12	13	43 者	2
	地域材使用量（累計）（㎥）	14.3	29.3	↗	5

※1「地域の美化や緑化、環境イベントなどのボランティア活動に参加する市民の割合」、「行政、団体、その他企業などと連携した環境活動を実施している事業者の割合」：本計画改訂時に把握する指標

イ 見解

（ア） 達成指標

達成指標については調査（令和2年度）を実施していない。引き続き、市民・事業者との連携を進めていく必要がある。

（イ） 活動指標

「エコスクール活動簿の評価が21点以上の学校数」については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、例年通りの取組を行うことができなかったことから、減少している。

「環境イベント参加者数」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止となったものが多かったことから、減少している。

すいた環境サポーター養成講座については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止となっている。

「アジェンダ21すいたの事業者会員数」については、市報等の広報活動により、増加している。

「地域材使用量」は順調に増加している。引き続き、使用量の増加に向けて吹田市木材利用推進ガイドラインの作成等の取組を進めていく必要がある。

（2） まもる

ア 評価

まもる 重点戦略の達成指標及び活動指標		前回 令和1年度 2019年度	今回 令和2年度 2020年度	目標値 R10年度 2028年度	評価点
達成指標	市域の年間エネルギー消費量（PJ）※1	19.3 （H29年度）	17.4 （H30年度）	13.1 PJ	4
	市民1人当たりのごみ排出量（1日）（g）	850	835	760 g	4
	生物多様性の保全を重要だと思う市民の割合（%）※2	36.6% （H28年度）	26.5%	50%	1
活動指標	市域の太陽光発電システム設備容量（累計）（万kw）	2.01	2.12	3.5 万kw	3
	食品ロス削減などのごみ削減啓発活動数（累計）（回）	106	112	520 回	3
	生物多様性保全イベント参加者数（人）	3,202	623	3,400人	1

※1エネルギー消費量の算出は統計データ集約の関係により２年遅れとなる。

※2「生物多様性の保全を重要だと思う市民の割合」：市政モニタリング調査（4年に1回）及び本計画改訂時に把握する指標

イ 見解

（ア） 達成指標

「市域の年間エネルギー消費量」については、低炭素型のビジネススタイルの普及により業務部門で減少し、全体としても減少している。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、家庭系ごみは増加したが、休業等により事業系ごみが減少したことから、「市民1人当たりのごみ排出量」については減少している。

「生物多様性の保全を重要だと思う市民の割合」については前回調査と比べ減少している。生物多様性に関する啓発活動やイベント等の実施により、生物多様性に対する関心を高めていく必要がある。

（イ） 活動指標

「市域の太陽光発電システム設備容量」については、固定価格買取制度の効果もあり、順調に増加している。

「食品ロス削減などのごみ削減啓発活動数」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止となったものが多かったことから、累計数の伸びが鈍化している。

「生物多様性保全イベント参加者数」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止となったものが多かったことから、減少している。

（3） そなえる

ア 評価

そなえる 重点戦略の達成指標及び活動指標		前回 令和1年度 2019年度	今回 令和2年度 2020年度	目標値 R10年度 2028年度	評価点
達成指標	災害に備えている市民の割合（%）※1	34.8% （H30年度）		75%	-
	居住地周辺の夏場の暑さ（涼しさ）に満足している市民の割合（%）※2	21% （H30年度）		30%	-
活動指標	連合自治会単位での自主防災組織の結成率（%）	73.5%	82.4%	100%	4
	雨水排水施設の整備率（%）	54%	54%	55%	2
	透水性舗装面積累計（㎡）	91,098	105,754	103,257 ㎡	5

※1「災害に備えている市民の割合」：市民意識調査（4年に1回）により把握する指標

※2「居住地周辺の夏場の暑さ（涼しさ）に満足している市民の割合」：本計画改訂時に把握する指標

イ 見解

（ア） 達成指標

「災害に備えている市民の割合」については、調査（令和2年度）を実施していない。引き続き、防災意識向上に向けた取組を進めていく必要がある。

「居住地周辺の夏場の暑さ（涼しさ）に満足している市民の割合」についても、調査（令和2年度）を実施していない。引き続き、熱中症対策やヒートアイランド現象対策等の取組を進めていく必要がある。

（イ） 活動指標

「連合自治会単位での自主防災組織の結成率」については、新規の自主防災組織の結成があったため、増加している。

「雨水排水施設の整備率」については、工事完了したものが無かったことから、整備率の変動は無いものの、雨水レベルアップ整備工事等の雨水排水施設の整備に取り組んでいる。

「透水性舗装面積累計」については、歩道等における導入により累計が増加し、目標値を達成した。今後も引き続き取り組んでいく。

2 分野別目標

（1） エネルギー

ア 評価

エネルギー 達成指標及び活動指標（◎は代表指標）		前回 令和1年度 2019年度	今回 令和2年度 2020年度	目標値 R10年度 2028年度	評価点
達成指標	◎市域の年間エネルギー消費量（PJ）※1	19.3 （H29年度）	17.4 （H30年度）	13.1 PJ	4
	◎市域の家庭部門における年間エネルギー消費量(市民1人当たり)（GJ）※1	13.3 （H29年度）	13.3 （H30年度）	8.2 GJ	2
	◎市域の業務部門における年間エネルギー消費量(従業員1人当たり)（GJ）※1	49.8 （H29年度）	35.0 （H30年度）	25.6 GJ	4
	市域の年間温室効果ガス排出量（千t-CO_2）※1	1,807 （H29年度）	1,502 （H30年度）	1,092 千t-CO2	4
	市民1人当たりの年間温室効果ガス排出量（t-CO_2）※1	4.88 （H29年度）	4.04 （H30年度）	2.89 t-CO_2	4
	吹田市役所の事務事業に伴う年間温室効果ガス排出量（千t-CO_2）	28.2	25.5	24千 t-CO_2	4
活動指標	公共施設における再生可能エネルギー導入件数（件）	85	88	130 件	3
	公共施設における再生可能エネルギー導入件数（施設）	54	57	77 施設	4
	市域の太陽光発電システム導入件数（累計）（件）	3,618	3,823	6,000 件	3
	市域の太陽光発電システム設備容量（累計）（万kw）	2.01	2.12	3.5 万kw	3

※1エネルギー消費量及び温室効果ガス排出量の算出は統計データ集約の関係により２年遅れとなる。

イ 見解

（ア） 達成指標

「エネルギー消費量」については、低炭素型のビジネススタイルの普及により業務部門が減少した。一方で家庭部門においては低炭素型のライフスタイルが徐々に広まっているものの、暑夏となった気候の状況もあり、横ばいとなっている。これらの結果、市域全体の「エネルギー消費量」は減少した。

「エネルギー消費量」の減少に加え、電気の排出係数も減少したことにより、「温室効果ガスの排出量（全体・1人当たり）」についても減少している。

「吹田市役所の事務事業に伴う年間温室効果ガス排出量」については、電気の排出係数が減少したことにより、減少している。

引き続き、家庭・事業所における節エネルギー等の取組を促し、環境意識の向上を図る必要がある。

（イ） 活動指標

「公共施設における再生可能エネルギー導入件数」については、公共施設の新設・改修時に導入を進めており、順調に増加している。

「市域の太陽光発電システム設備容量」については、固定価格買取制度の効果もあり、順調に増加している。

（2） 資源循環

ア 評価

資源循環 達成指標及び活動指標(◎は代表指標)		前回 令和1年度 2019年度	今回 令和2年度 2020年度	目標値 R10年度 2028年度	評価点
達成指標	◎市民1人当たりのごみ排出量(1日)（ｇ）	850	835	760 g	4
	◎リサイクル率（%）	15.4%	15.6%	25.60%	3
	ごみの発生抑制・排出抑制やリサイクルなどごみ減量の取組に満足している市民の割合（%）※1	29.9% （H30年度）		40%	-
	燃焼ごみの年間搬入量（ｔ）	100,434	98,981	84,390 t	3
	ごみの年間排出量　家庭系ごみ（ｔ）	81,029	82,657	76,995 t	1
	ごみの年間排出量　事業系ごみ（ｔ）	35,063	31,800	27,646 t	4
	マイバッグ持参率（%）	79.6%	83.0%	80%	5
活動指標	食品ロス削減などのごみ削減啓発活動数（累計）（回）	106	112	520回	3

※1「ごみの発生抑制・排出抑制やリサイクルなどごみ減量の取組に満足している市民の割合」：市民意識調査（4年に1回）により把握する指標

イ 見解

（ア） 達成指標

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、「家庭系ごみ」は増加したが、休業等により「事業系ごみ」が減少したことから、「市民1人当たりのごみ排出量」については減少している。同様に「燃焼ごみの年間搬入量」についても減少している。「リサイクル率」については若干増加している。

「マイバッグ持参率」については、平成30年4月1日に締結した北摂7市3町と食品スーパーとによるレジ袋無料配布中止を趣旨とする協定に加え、令和2年7月から国全体としてレジ袋有料化義務化（無料配布禁止等）されたことから、市民にマイバッグ持参習慣が定着してきたため、増加している。

「ごみの発生抑制・排出抑制やリサイクルなどごみ減量の取組に満足している市民の割合」については、調査（令和2年度）を実施していない。

今後も、雑がみ分別の啓発や事業所への指導に取り組むとともに、使い捨てプラスチックごみの削減など、ごみ減量をさらに取り組む必要がある。

（イ） 活動指標

「食品ロス削減などのごみ削減啓発活動数」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止となったものが多かったことから、累計数の伸びが鈍化している。

（3） 生活環境

ア 評価

生活環境 達成指標及び活動指標（◎は代表指標）		前回 令和1年度 2019年度	今回 令和2年度 2020年度	目標値 R10年度 2028年度	評価点
達成指標	◎公害に関する苦情を解決した割合（%）	56.2%	73.6%	80%	4
	◎「環境美化推進団体」の団体数（団体）	25	24	40 団体	2
	環境目標値達成率（%） ①二酸化窒素	100.0%	100.0%	100%	5
	②一般環境騒音	90.0%	88.0%	100%	3
	③河川BOD	97.9%	100.0%	100%	5
	快適な生活環境の確保に満足している市民の割合（%）※1	31.7% （H30年度）		40%	-
	熱帯夜日数（5年移動平均値）（日）	33	35	29 日以下	1
	居住地周辺の夏場の暑さ（涼しさ）に満足している市民の割合（%）※2	21% （H30年度）		30%	-
活動指標	下水処理水の高度処理普及率（%）	63.7%	63.6%	100%	1
	環境美化推進重点地区数（地区）	9	9	15 地区	2
	雨水浸透箇所数累計（箇所）	325	325	452 箇所	2
	透水性舗装面積累計（㎡）	91,098	105,754	103,257 ㎡	5

※1「快適な生活環境の確保に満足している市民の割合」：市民意識調査（4年に1回）により把握する指標

※2「居住地周辺の夏場の暑さ（涼しさ）に満足している市民の割合」：本計画改訂時に把握する指標

イ 見解

（ア） 達成指標

「公害に関する苦情を解決した割合」については、苦情の原因の大半を占める短期工事が数多く終了したことにより、大きく増加している。引き続き、苦情解決に向けた取組を進めていく。

「環境美化推進団体」の団体数については、前年度より減少している。環境美化推進団体の更なる確保に努めることで、市民の環境美化に対する意識を高めていく。

「環境目標値」については、高い水準を維持している。「二酸化窒素の大気中の濃度」は、近年全ての大気常時監視測定局で目標値を達成している。「一般環境騒音」は測定地点 50 地点中、44 地点が環境目標値を達成しており、達成率はほぼ横ばいである。近年では、低公害（低騒音）車の普及が進んでいるが、引き続き道路管理者に低騒音舗装等の要望を行い、環境の保全に努めていく。「河川 BOD」は目標値を達成しているが、今後も河川パトロールの継続、水質保全の啓発に努める必要がある。

「熱帯夜日数」については、平成27年度（2015年度）の熱帯夜数が20日であったの

に対し、令和2年度（2020年度）が31日と11日増加したため、5年移動平均値が増加した。当該指標は、ある程度の長期間をもって評価する必要がある。

「快適な生活環境の確保に満足している市民の割合」及び「居住地周辺の夏場の暑さ（涼しさ）に満足している市民の割合」については、調査（令和2年度）を実施していない。引き続き、健康で快適な暮らしを支える環境の保全に向けた取組を引き続き進めていく必要がある。

（イ）　活動指標

「下水道の高度処理普及率」については、高度処理水量の変化は無かったが、高度処理率が低い地域の人口増や高い地域の人口減により、全体としてわずかに減少した。

「環境美化推進重点地区」については、令和2年度は、新たに環境美化推進重点地区を指定した地域はなかった。今後も、市民・事業者等と連携して取組を進める必要がある。

「雨水浸透箇所数累計」については増加していないものの、雨水浸透箇所の選定等の取組を行っている。今後も取組を進め、増やしていく必要がある。

「透水性舗装面積累計」については、歩道等における導入により累計が増加し、目標値を達成した。今後も引き続き取り組んでいく。

（4） みどり･自然共生

ア 評価

みどり・自然共生 達成指標及び活動指標(は代表指標)		前回 令和1年度 2019年度	今回 令和2年度 2020年度	目標値 R10年度 2028年度	評価点
達成指標	◎吹田市域の緑被率（%）※1	26.1% （H25年度）		30% (将来目標)	-
	◎「みどりの協定」に基づく取組などを行う団体数（団体）	28	29	60 団体	3
	◎みどりが豊かでまちに愛着や誇りを感じる市民の割合（%）※2	62.1% （H30年度）		67%	-
	生物多様性の保全を重要だと思う市民の割合（%）※3	36.6% （H28年度）	26.5%	50%	1
	緑あふれる未来サポーター制度（公園）の登録団体数（団体）	101	94	120 団体	1
活動指標	生物多様性保全イベント参加者数（人）	3,202	623	3,400 人	1
	市域面積に対する緑地面積の割合（%）※1	15.4% （H26年度）		20 % (将来目標)	-
	市民1人当たりに対する都市公園面積（㎡/人）	8.7	8.7	10 ㎡/人 (将来目標)	1
	公園などの面積（ha）	359.85	360.29	361.6 ha	4
	希少種の保全数（ヒメボタル、コバノミツバツツジ、ヤマサギソウ、イヌセンブリ）（種）※1	4 （H30年度）		4 種	-

※1「吹田市域の緑被率」、「市域面積に対する緑地面積の割合」、「希少種の保全数」：「第2次みどりの基本計画改訂版」の進行管理（令和7年度実施予定）により把握する指標

※2「みどりが豊かでまちに愛着や誇りを感じる市民の割合」：市民意識調査（4年に1回）により把握する指標

※3「生物多様性の保全を重要だと思う市民の割合」：市政モニタリング調査（4年に1回）及び本計画改訂時に把握する指標

イ 見解

（ア） 達成指標

「みどりの協定」に基づく取組などを行う団体数については、ホームページ等による周知を進めた結果、増加した。

「生物多様性の保全を重要だと思う市民の割合」については前回調査と比べ減少している。生物多様性に関する啓発活動やイベント等の実施により、生物多様性に対する関心を高めていく必要がある。

「緑あふれる未来サポーター制度（公園）の登録団体数」は、活動報告書などが未提出の団体等に再度意思確認を実施して、活動団体を精査した結果、減少している。

「吹田市域の緑被率」及び「みどりが豊かでまちに愛着や誇りを感じる市民の割合」については、調査（令和2年度）を実施していない。引き続き、第2次みどりの基本計画改訂版に基づき、みどりの質及び量の双方を重視した施策を推進する必要がある。

（イ） 活動指標

「生物多様性保全イベント参加者数」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、

中止となったものが多かったことから、減少している。
「市民1人当たりに対する都市公園面積」については、変動は無かった。目標達成に向け、引き続き都市公園の確保に努める必要がある。
「公園などの面積」については、令和2年度は、街区公園2、遊園3を開設し、増加している。
「希少種の保全数」については、調査（令和2年度）を実施していない。引き続き、当該種も含めた生物多様性の保全に向けて、取組を進めていく必要がある。

（5） 都市環境

ア 評価

都市環境 達成指標及び活動指標(◎は代表指標)		前回 令和1年度 2019年度	今回 令和2年度 2020年度	目標値 R10年度 2028年度	評価点
達成指標	◎今住んでいるところが気に入っているので、住み続けようと思っている市民の割合（%）※1	59.8% （H30年度）		70%	-
	◎まちなみが美しいと感じる市民の割合（%）※1	60.7% （H30年度）		70%	-
	鉄道・バスなど公共交通網の便利さに満足している市民の割合（%）※1	58.5% （H30年度）		60%	-
	コミュニティバス　1便当たりの乗車人数（人）	19.1	15.9	↗	1
活動指標	バリアフリー重点整備地区内の主要な生活関連経路など整備延長（km）	9.9	13.3	17 km	4
	自転車通行空間の整備延長（km）	2.6	4.0	40 km	3
	まちづくりのルール（地区整備計画）の策定地区数[面積]（地区）［ha］	66 ［261 ha］	70 ［265 ha］	75 地区 ［230 ha］	4
	景観に関するルール（景観重点地区）の指定地区数[面積]（地区）［ha］	23 ［98.8 ha］	28 ［109 ha］	40 地区 ［150 ha］	4

※1「今住んでいるところが気に入っているので、住み続けようと思っている市民の割合」、「まちなみが美しいと感じる市民の割合」、「鉄道・バスなど公共交通網の便利さに満足している市民の割合」：市民意識調査（4年に1回）により把握する指標

イ 見解

（ア） 達成指標

「コミュニティバス1便当たりの乗車人数」については、新型コロナウイルス感染症の拡大による外出の自粛等の影響から減少している。

その他の達成指標については調査（令和2年度）を実施していない。引き続き、快適な都市環境の創造に向けて、市民・事業者への啓発や取組の支援を進めるとともに、開発事業に対する誘導に取り組んでいく必要がある。

（イ） 活動指標

「バリアフリー重点整備地区内の主要な生活関連経路などの整備延長」については、順調に増加している。

「自転車通行空間の整備延長」については、増加している。目標達成に向けて、更なる整備を進めていく必要がある。必要な予算措置や業務の効率化等の取組を強化する必要がある。

「まちづくりのルール（地区整備計画）の策定地区数」については、新たに4地区（4.0ha）にて策定し、増加している。

「景観に関するルール（景観重点地区）の指定地区数」については、新たに5地区（10.2ha）にて指定し、増加している。